

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	20-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Lifestyle risk factors, inflammatory mechanisms, and COVID-19 hospitalization: A community-based cohort study of 387,109 adults in UK 生活習慣の危険因子、炎症を起こすメカニズムと COVID-19 重症化: 英国の成人 387,109 人を対象としたコミュニティベースのコホート研究		
執筆者		
Hamer M, Kivimäki M, Gale CR, Batty GD.		
掲載誌		
Brain Behav Immun. 2020 Jul;87:184-187. doi: 10.1016/j.bbi.2020.05.059.		
キーワード		PMID
C 反応性タンパク質, コロナウイルス, 感染, 肥満, 身体活動, 人口コホート, 喫煙		32454138
要 旨		
<p>目的: 英国の大規模一般集団を対象としたコホートデータと COVID-19 感染登録情報を用いて、COVID-19 の重症化と生活習慣の危険因子 (喫煙, 身体活動不足, 肥満, 過度のアルコール摂取) との関係を明らかにする。</p> <p>方法: 対象者は UK Biobank に登録された英国在住の男女 387,109 名 (56.4±8.8 歳; 女性 55.1%) であった。身体活動, 喫煙, およびアルコール摂取は, ベースライン時 (2006~2010 年) の質問票によって評価した。測定した身長と体重から算出した BMI を全体的な肥満の指標とした。アウトカムは COVID-19 の発症であり、重症例は入院の代替変数とみなされた。2020 年 3 月 16 日から 2020 年 4 月 26 日までに 760 例の COVID-19 の症例があった。このうち、重症化した者とそうでなかった者を比較して生活習慣ごとの重症化リスク (年齢性別調整後) を解析した。</p> <p>結果: 年齢, 性別, および各生活習慣因子の相互調整後, 運動不足の人は 1.32 倍 (95%CI: 1.10 - 1.58), 喫煙者は非喫煙者と比較して 1.42 倍 (95%CI: 1.12 - 1.79), および肥満者は 2.05 倍 (95%CI: 1.68 - 2.49) 重症化リスクが高かった。一方で, 大量飲酒者では関連が認められなかった。総合的な生活習慣を不健康習慣スコアとして定量化し, 最も良い生活習慣のグループと比較すると, 最も悪い生活習慣のグループでは, 重症化リスクは 4.41 倍 (95%CI: 2.52 - 7.71) 高かった。C 反応性蛋白質レベルは COVID-19 の重症化リスク上昇と用量依存的に関連し, 一部 (10~16%) は不健康な生活習慣と COVID-19 の間の関連を説明した。</p> <p>結論: 簡単な生活習慣を変えることで, COVID-19 の重症化リスクを減らすことができる。</p>		